歴史総合-DX

 **1869年（明治2）　維新政府の始動❷**

1868年（明治元）9月に東京では築地に外国人居留地が設置され、新暦1月1日には日本海側で唯一の開港場となった新潟港が開港した。誕生まもない維新政府は、中央集権の第一歩として、薩摩（鹿児島県）・長州（山口県）・土佐（高知県）・肥前（佐賀県）の勝ち組の四雄藩が率先して領地・領民を朝廷に返上（版籍奉還）する建白書を提出、3月には再びの天皇の東京への道すがら、 天皇が伊勢神宮に初参拝された。6月には版籍奉還が勅許されて、旧藩主はそのまま知藩事として任命され、また、 戊辰戦争など幕末からの戦死者を祀 （まつ）る東京招魂社（後に靖国神社と改称）が創建され、7月には官制改革が実施され、民部省・大蔵省・兵部省・刑部省・宮内省・外務省の6つの省庁が誕生し、長官として太政官（総理大臣の前身、在任期間は明治18年まで続く）が6省の上に置かれ、元七卿の京都公卿の三条実美（1837～1891） が就任し、近代的な兵制を急ぐ兵部省では、次官として長州藩の軍師・大村益次郎が就任したが、9月に大阪に出張した折、宿となった京都の旅館で軍制改革に反感を抱く数人の浪士に襲撃されて重傷を負い、それが原因で11月に死亡した。

（戊辰戦争時の東征の折、朝廷軍に従った静岡の神官が、徳川慶喜の静岡移封で帰るに 帰れなくなり、大村益次郎の計らいでそれら神官に東京招魂社の神職が与えられ、1893年（明治26）に日本陸軍の祖・大村益次郎の銅像が境内に建立された）